

期待 72-恐怖の記憶：de Sousa, PNAS19 など

最近目にした de Sousa et al. PNAS, 116:8576-8581, 2019 に、その元となった論文があった。Cowansage et al. Neuron, 84:432-441, 2014 である（多分、もっと適切な論文があるだろう）。これらを「眺めて」みたが、基礎的な知識がないので、理解できなかった。ただ、面白いと思ったのは、動物の経験を人工的に再現できるという点だった。この点を利用して、新しい知見が積み重ねられているようだ。例えば、de Sousa らは、後膨大部皮質 RSC における記憶の optogenetic reactivation は、その記憶の通常の system consolidation を促進するという。恐らく、しばらくの間、これらの手法がいろいろな領域に適用され、研究が進むだろう。

発端となった『期待 51, 66』に適用するとしたら、条件づけ後、少なくとも、10分、3時間、6時間に記憶の再活性を人工的に起こしたら、その後どういう結果になるだろう。知識がないので、トンデモナイ実験を思い浮かべているのではないかと恐れるが、書いてしまったので、アップする。

Optogenetics という研究法が興隆しているようで、自らの知識のなさが身に染みている。後期高齢者がついていくのは大変だが、できる範囲で勉強してみようと思う。

しばらくの間、恐怖の記憶をテーマにしてきたが、この辺りで、別の方向も考えてみようと思っている。